

2020年度公益財団法人JKA補助事業

# 教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

令和3年3月

一般社団法人日本教育情報化振興会



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

# 目次

第1章 .....	1
情報モラル指導充実のための事業 .....	1
1. 事業の目的 .....	2
2. 作業項目とスケジュール／作業体制 .....	3
3. セミナー開催 .....	7
4. 教育の情報化推進フォーラム .....	21
5. 今年度作成したコンテンツの概要 .....	24
6. まとめ .....	31
第2章 .....	32
コミュニケーション力育成のための事業 .....	32
1. 事業の目的 .....	33
2. 作業項目とスケジュール／作業体制 .....	34
3. 小学校版教科別能力表開発「情報活用能力ベーシック」 .....	36
4. 小学校版教科別能力表「情報活用能力ベーシック」パンフレット制作 .....	46
5. セミナー開催 .....	49
6. 情報活用能力ベーシックを活用した模擬授業研究開発 .....	52
7. まとめ .....	69

# 第1章

## 情報モラル指導充実のための事業

## 1. 事業の目的

インターネットは、社会生活の一部となり、買い物や予約申込み等は電話よりもむしろインターネットを利用して行い、インターネット無しでは考えられないというほど、社会生活に浸透している。また、スマートフォンの爆発的な普及によりインターネットへの入り口となる端末は、パソコン、携帯電話からスマートフォン、タブレット端末、ゲーム機、音楽プレーヤーのように多様化すると同時に、いつでも、どこでも、誰でもインターネットに接続して、利用できるものとなっており、児童・生徒は保護者の目の届かないところで利用できるようになった。また、2020年度には、文部科学省の政策「GIGAスクール構想」により、児童・生徒1人に1台のPCが整備され、その活用と児童・生徒の安心安全のための配慮が非常に重要なテーマとなっている。

このように身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNS・Twitterや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「情報モラル指導充実のための事業」を実施している。

これまで、インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「ネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人JK Aの補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその8年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。

なお、これらは公益財団法人JK Aの競輪の補助金を受け実施した。

## 2. 作業項目とスケジュール／作業体制

### (1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである

図表1 作業項目とスケジュール

作業項目	2020年						2021年					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会開催	▼① 13			▼② 10	▼③ 5	▼④ 10		▼⑤ 2		▼⑥ 26		
開催地公募	---▼											
テキスト改訂	▲-----▼											
セミナー開催			▲-----▼									
学習教材開発		▲-----▼										
教育の情報化 推進フォーラム												▼ 5

### (2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「ネット社会の歩き方情報モラルセミナー検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全6回の検討委員会を開催し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の公募と採択、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、学習教材の企画と開発、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、セミナー用テキストの改訂の実作業、セミナー開催地の教育委員会との連絡、セミナー開催準備、学習教材開発の実作業等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
鳴門教育大学大学院	遠隔教育プログラム推進室長 藤村 裕一
岐阜聖徳学園大学	教授 石原 一彦
聖心女子大学	非常勤講師 榎本 竜二
新見公立大学	教授 梶本 佳照
エンゼル幼稚園	子育て支援センター長 勝見 慶子
東京都台東区立台東育英小学校	元校長 木村 和夫

千葉学芸高等学校	校長	高橋 邦夫
柏市教育委員会	教育研究専門アドバイザー	西田 光昭
京都市立向島秀蓮小中学校	教諭	堀川 紘子
千葉大学教育学部 附属中学校	副校長	三宅 健次
川崎市教育委員会総合教育センター	指導主事	和田 俊雄

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人 日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	事務局次長・調査・研究開発部長 吉田 真和	総括・研修対応・窓口

(3) 委員会の開催

委員会は、適宜日程を調整し開催した。今年度は、たくさんの教材開発を行なったため、確認事項が多く発生したが、予定通り年間6回の委員会を開催した。

それぞれの開催日、議題は下記の通りである。

図表 4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第1回	R2. 4.13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度スケジュールの確認</li> <li>・セミナー開催地採択と担当委員の選定</li> <li>・新学習指導要領に対応した共通教材の改訂の検討</li> <li>・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> <li>- ユニット教材（新規コンテンツ 10 本）</li> <li>- ペーパーサート教材（イラストの種類増、背景、人物 等）の開発</li> <li>- 保護者向けモラルコミック教材（6 冊子）の開発</li> <li>- なびカード教材（10 テーマの補完＋目次）の開発</li> </ul> </li> </ul>
第2回	R2. 7.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> <li>- ユニット教材（新規コンテンツ 10 本）</li> <li>- ペーパーサート教材（イラストの種類増、背景、人物 等）の開発</li> <li>- 保護者向けモラルコミック教材（6 冊子）の開発</li> <li>- なびカード教材（10 テーマの補完＋目次）の開発</li> </ul> </li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西教育 ICT 展のパネル討論について</li> </ul>
第3回	R2. 8. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> <li>- 学校現場に必要な教材とは</li> <li>- 新たな情報モラルの事件や問題等の事例への対応</li> </ul> </li> <li>・新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> <li>- ユニット教材（新規コンテンツ 10 本）</li> <li>- ペープサート教材（イラストの種類増、背景、人物 等）の開発</li> <li>- 保護者向けモラルコミック教材（6 冊子）の開発</li> <li>- なびカード教材（10 テーマの補完＋目次）の開発</li> </ul> </li> <li>・JAET 全国大会鹿児島大会のパネル討論について</li> </ul>
第4回	R2. 9.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> <li>- ユニット教材（新規コンテンツ 10 本）</li> <li>- ペープサート教材（イラストの種類増、背景、人物 等）の開発</li> <li>- 保護者向けモラルコミック教材（6 冊子）の開発</li> <li>- なびカード教材（10 テーマの補完＋目次）の開発</li> </ul> </li> </ul>
第5回	R2.11. 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の情報化推進フォーラムのパネル討論について</li> <li>・新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> <li>- ユニット教材（新規コンテンツ 10 本）</li> <li>- ペープサート教材（イラストの種類増、背景、人物 等）の開発</li> <li>- 保護者向けモラルコミック教材（6 冊子）の開発</li> <li>- なびカード教材（10 テーマの補完＋目次）の開発</li> </ul> </li> </ul>
第6回	R3. 1.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発教材の最終確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>- アフレコに向けた修正の確認及び内容の確定</li> <li>- なびカード教材（10 テーマの補完＋目次）の開発</li> </ul> </li> <li>・次年度セミナー用テキスト改訂カ所の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 確認・レビュー</li> </ul> </li> <li>・教育の情報化推進フォーラムのパネル討論について <ul style="list-style-type: none"> <li>- 最終確認</li> </ul> </li> </ul>

#### (4) 開催地の公募

開催地の公募は、教育委員会の意向もあり<sup>1</sup>前年度の1月より行った。日本教育情報化振興会のWeb ページで公開すると共に、全国の都道府県と中核市以上の教育委員会約100カ所へ下記内容の案内状を送付した。また、当会の会報を全国自治体（1、724カ所）の教育委員会に送付しているが、そこに下記内容の案内状を同封した。

##### 1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

##### 2) 開催時期と時間

令和2年6月から令和3年2月の間の午後、最低2時間30分

##### 3) 対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約50名程度（目安）

##### 4) 開催会場

地方自治体等の無償で利用できる会場 かつ 受講者がパソコンを使用可能な会場

##### 5) セミナーの具体的な内容

講師育成セミナー検討委員会と貴教育委員会の協議で決定する

##### 6) セミナーのプログラム（例）

- ・ データから見るネット社会の現状
- ・ 情報モラルの指導（理論編および実践編）
- ・ 「ネット社会の歩き方」の活用
- ・ その他の教材の紹介
- ・ 保護者との関わり
- ・ 問題発生時の対応
- ・ ワークショップ

#### (5) セミナー用テキストの改訂

セミナー用テキストの中には、携帯電話・スマートフォンの保有率やネット上のトラブル発生状況等、年々変化する数値データがあるため、中央省庁が発表している最新データに更新した。

さらに、2020年から実施される新学習指導要領解説編における情報モラルも取り扱いについても、詳しい解説を追加した。

また、スマートフォンを保有する比率が増え、アプリの進展による新しいSNSのサービスや問題にも対応する必要があった。このように世の中の動きを反映したセミナーとするために、委員の意見に基づき（過去一年間程度のネット上のトラブルやリスクの中から喫緊の課題と考えられる事案を取り込む）資料の差し替えを行った。

---

<sup>1</sup>通常、地方自治体の教育委員会は教員研修計画を前年度の2月頃に策定している。この計画に組み込むために、本事業で実施するセミナーの採択に関しても早期の決定を求められている。

### 3. セミナー開催

#### (1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国の教育委員会が主催している教員向け研修会の一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で、教員が比較的時間を確保し易い、夏休み期間に開催が集中している。教育委員会の指定が無い場合は以下のプログラムでセミナーを実施することとした。

新型コロナウイルスの流行のため、多くの自治体でセミナーが中止となり、一部の自治体では、オンラインの形式でセミナーを開催した。

図表5 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	R2. 5.27	宣真高等学校	西田委員	中止
第2回	R2. 7.28	市川市教育センター	藤村委員長	中止
第3回	R2. 7.30	鹿児島市立学習情報センター	石原委員	中止
第4回	R2. 8. 3	福井市教育委員会	石原委員	中止
第5回	R2. 8.21	佐賀県教育庁（小中）	西田委員	中止
第6回	R2. 8.21	佐賀県教育庁（高）	榎本委員	中止
第7回	R2. 8.21	愛媛県総合教育センター	三宅委員	中止
第8回	R2.10.29	関西教育 ICT 展	藤村委員長 石原委員 堀川委員 和田委員	60名
第9回	R2.11. 7	JAET 全国大会鹿児島大会	藤村委員長 他3名	中止
第10回	R2.11.13	鹿児島県総合教育センター	三宅委員	20名

第11回	R2. 11. 18	堺市教育委員会	西田委員	10名
第12回	R2. 11. 19	呉市教育委員会 (集合・オンライン開催・ 鳴門教育大学大学院から)	藤村委員長	63名
第13回	R3. 1. 7	電子開発学園 北海道情報専門学校	榎本委員	中止
第14回	R3. 1. 25	鳥取県湯梨浜町教育委員会 (集合・オンライン開催・新見公立大学から)	梶本委員	75名
第15回	R3. 2. 2	兵庫県三木市立教育センター (オンライン開催・柏市教育委員会から)	西田委員	56名
第16回	R3. 3. 5	教育の情報化推進フォーラム (オンライン開催・日本教育情報化振興会から)	藤村委員長 石原委員 榎本委員 木村委員 西田委員 三宅委員	192名
合計				416名

図表6 関西教育 ICT 展\_でのセミナー風景 (令和2年10月29日)



図表7 鹿児島県総合教育センターでのセミナー風景 (令和2年11月13日)



図表8 堺市教育センターでのセミナー風景 (令和2年11月18日)



図表9 呉市教育委員会でのセミナー風景 (令和2年11月19日)



図表 1 0 鳥取県湯梨浜町教育委員会でのセミナー風景（令和 3 年 1 月 2 5 日）



## (2) セミナー開催団体の所感

セミナー開催団体の所感を以下に抜粋する。

- 1) 講演では、情報モラル教育が必要とされる社会的背景と情報モラルの指導について具体的、実践的な内容を中心としながらお話をしていただきました。講演内容には、本セミナーの参加者の校種が様々であったことを考慮し、幅広く事例を取り上げていただきました。

また、講演の後半では、情報モラル教材の作成を行い、参加者自身が有する情報モラル指導に関する課題等を具現化することで、一人一人の問題意識を明確にできたとともに、主体的かつ能動的に情報モラルに関する指導に関して考えることができたようでした。

以下、参加者の感想の一部です。

- ・情報モラル教育は生徒自身に考えさせ、実社会とどのように結び付けて話をするのが大切だと改めて感じました。
- 2) 新型コロナウイルス感染症対策として、事前に動画撮影をしていただき、YouTube の限定公開を活用したオンライン研修で実施していただきました。当初は 10 月に実施予定でしたが、事前に研修動画を撮影していただいたおかげで、コロナ禍の状況でも 11 月に実施することが可能になりました。  
参加者からは、「1 人 1 台環境下では絶対に情報モラル教育が大事」「自校の指導計画を見直す必要があると痛感した」「教科の中で指導するという意識を高めていかなければならない」等、今後に向けて前向きな意見が多数ありました。
  - 3) 「G I G A スクール構想」の実現による 1 人 1 台端末下では、情報モラル教育はますます重要になってくると考えています。今回の研修対象者である教頭に各校で研修内容を周知させるように進めていきます。また、教育委員会としても、今後の情報モラル教育の充実に向けて、取組を進めていきたいと考えています。

本セミナーが大変有意義であったことから、来年度も申込みさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

- 4) オンラインによる研修だったため、講義形式のスタイルしか取れなかったことが残念であった。
- 5) 「ネット社会の歩き方」の動画紹介についてもっと知りたかったという声が多かった。実際の学習場面で使うことができるため、現場の教職員は関心が高い。
- 6) 緊急事態宣言発令中のため、オンラインでの開催になったが、話を聞くだけでなく、共同編集によるやりとりもあったため、興味深く参加できた。
- 7) シミュレーション教材を体験しましたが、情報モラルを学習するにあたって、生徒にもイメージさせやすいものだと感じました。今後活用していきたいです。

- 8) とても分かりやすい内容でした。新しい教材も知ることができたのでよかったです。操作だけでなく、正しい判断ができる心を育てていきたいと思いました。
- 9) 本研修を通して、「ネット社会の歩き方」の教材の魅力を、多くの教員が知ることができた。今後、本市で導入しているネットモラル教材とともに、活用を進めていき、1人1台にも対応した、情報モラル教育をさらに推進していきたい。

図表 1 1 セミナー開催団体の所感

開催場所	講師	所感
鹿児島県総合教育センター	三宅 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現上がよく分かり、とてもためになりました。現場で直面ちよくめんしている問題であったためとてもタイムリーでした。</li> <li>・ペーパーサート教材は、子どもと作ってもよいと思いました。</li> <li>・知らない教材をしれて良かった。是非、生徒にも使ってもらいたい例であり、自分のこととして考えるきっかけになると思った</li> <li>・今まで深く学んでいなかったもので、すごく参考になった。生徒にもしっかり伝えていきたい</li> <li>・実際に起こったことやデータから、どのようなことが問題になっているのかがわかった。</li> <li>・時間やスキル等がなくてもすぐに使える資料やコンテンツの情報が豊富でした。</li> <li>・学校の関わり方が、課題だったので、具体的に教えていただき大変助かりました。</li> <li>・まず、現状を確認することで、今まで以上にモラルの大切さを感じました。また学校に帰って、資料を読み返し、活用させていただきます。</li> </ul>
堺市教育委員会教育センター	西田 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営、学年経営、学校経営に加え、授業の中でも、情報活用について考え、体験させる場を作る必要を強く感じた。</li> <li>・大変わかりやすかったです。</li> <li>・子どもたちの SNS トラブルの話は参考になります。本日の研修を受けて、積極的に具体的な指導ができると感じました。</li> <li>・初めて知りましたが、多くの職員・生徒・保護者が見れるような紹介をしていきたい。</li> <li>・興味を持ちやすい、使いやすい教材が多いと感じた。</li> </ul>

<p>呉市教育委員会</p>	<p>藤村 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なツールがあるので活用できそうです。</li> <li>・具体的に危険性がわかり、研修がひつようであることが痛感できました。</li> <li>・具体的な例が、子ども教師にわかりやすくしめしてあるので良かった。</li> <li>・とても細やかな内容で充実している。</li> <li>・学習指導要領との関わりがよくわかりました。情報モラルの指導をしなければいけないことだと広く言っていきます。</li> <li>・学習指導要領を再度見直しを行なう必要があると思った。</li> <li>・これからの学校生活の中で「使う」ではなく、「上手に使う」という意識をもって、情報モラル教育を行なっていきたい。</li> <li>・教材をしっかり活用したい。また、校内の研修の参考にしたい。</li> <li>・児童が興味を持って学習できるような教材だと思う。</li> <li>・中学校では、各教科に明けた資料があり、ぜひ校内研修を活用していきたい。</li> <li>・情報モラルの指導の具体がわかりました。ありがとうございました。</li> <li>・今後、必要性の高い研修内容であると思いました。</li> <li>・資料もいろいろな種類があり、是非教員研修で活用したいと思いました。</li> </ul>
<p>湯梨浜町教育委員会</p>	<p>梶本 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ネット社会の歩き方」をすることができて良かった。</li> <li>・短時間で多岐に渡って指導をしていただき、大変刺激になった。</li> <li>・情報モラルの意義や各教科とのつながりを確認することができました。</li> <li>・資料をたくさんいただいたので、自分でもいろいろ調べてみたいと思いました。</li> <li>・このようなセミナーはこれまで参加したことがなかったので、知識を得ることができて助かった。</li> <li>・情報モラルについて様々な教科また生活場面を通して児童に伝えていきたいと思います。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ネット社会の歩き方」というサイトを知ったので、授業で活用できたらと思います。ありがとうございました。</li> </ul>
三木市教育センター	西田 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく、取組安いものでした。</li> <li>・教材の紹介はシンプルでわかりやすく、実践しやすい。</li> <li>・MS Teams で動画視聴をするのが、とても深淺でした。画面を操作しながら、指示を聞くのが難しかったです。</li> <li>・情報モラルにつて、教材の考え方や指導するにあたってのポイントがわかり大変参考になりました。</li> <li>・「ネット社会の歩き方」がわかりやすく、これからも活用していきたい。</li> <li>・「ネット社会の歩き方」という児童や保護者に使えるすてきな教材に出会えてよかったです。</li> <li>・1人1台タブレットを所有するにあたり「危険なものは正しい使い方を教え見守る」という教師の姿勢は、その通りだと納得できた。教材についても、職員に紹介していきたい。</li> <li>・新たな教材や指導のポイントがわかったのでとてもよかったです。先生のお話もわかりやすかったです。</li> <li>・GIGA スクールに向けて、今後指導していくことがわかりました。情報モラルについては低学年から指導していく必要があると感じました。</li> <li>・もう少し教材の種類が多いとよいと思います。</li> <li>・動画も身近な内容でわかりやすかったと思います。紹介していただいて良かったと思います。</li> <li>・道徳や学活等で活用していきたいです。</li> <li>・ネットショッピングやSNS アプリなどのシミュレーションを通して考えられる教材があり、実際に活用してみたいと思いました。</li> </ul>

(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ下記アンケートを実施した。

図表 1 2 受講者向けアンケートシート (おもて)

★マークのしかた



### 「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー アンケート

「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを受講いただきありがとうございます。ご意見・ご感想を聞かせてください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。  
○: 空白マーク   ●: 正しいぬりつぶし   /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。  
この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたたりしないように注意してください。

- (1) 【択一選択設問】 あなたの性別は？  
 男    女
  
- (2) 【択一選択設問】 あなたの年齢は？  
 20～29歳    30～39歳    40～49歳    50～59歳    60～69歳    70歳以上
  
- (3) 【単一選択設問】 あなたの所属についてお伺いします。以下の項目から、あなたの所属に合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)  
 小学校    中学校    高等学校    特別支援学校    それ以外の学校  
 行政    その他
  
- (4) 【単一選択設問】 あなたの職名についてお伺いします。以下の項目から、あなたの職名に合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)  
 校長    副校長    教頭    教諭    指導主事    その他
  
- (5) 【複数選択設問】 あなたの分掌分野についてお伺いします。あなたの分掌分野に合うものを選んでください。(複数回答可)  
 教科指導    生徒指導    教務    情報教育    研修    その他
  
- (6) 【複数選択設問】 あなたの担当教科についてお伺いします。あなたの担当教科に合うものを選んでください。(複数回答可)  
 小学校    情報    技術家庭    国語    社会    数学  
 理科    英語    音楽    美術    書道    保健体育  
 その他
  
- (7) 【単一選択設問】 これまで受履された研修についてお伺いします。過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。(1つにマーク)  
 ある    ない
  
- (8) 【単一選択設問】 これまでの情報モラル研修への関わり方についてお伺いします。過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。(1つにマーク)  
 ある    ない

→次ページに続く

  
1 / 2  
情報モラルセミナー  
アンケートシート  
(2017年度)

図表 1 3 受講者向けアンケートシート（うら）

★マークのしかた



(9) 【複数選択設問】受講動機についてお伺いします。本セミナーへの受講動機として該当する項目の番号を選んで下さい。（複数回答可）

情報教育の担当をしているため
  情報モラル指導のレベルアップのため  
 上司から受講の指示、勧めがあったため
  その他

(10) 【単一選択設問】セミナーの内容についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回のセミナーが参考になると思うか、【参考度】をお答えください。（1つにマーク）

参考にならない
  あまり参考にならない
  やや参考になる
  大変参考になる

(11) 【自由記述設問】今回のセミナー内容に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(12) 【単一選択設問】セミナーの教材についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回紹介した教材が活用できると思うか【活用度】をお答えください。（1つにマーク）

活用できない
  あまり活用できない
  やや活用できる
  大変活用できる

(13) 【自由記述設問】今回ご紹介した教材に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(14) 【単一選択設問】今回のセミナーで得られた情報の展開についてお伺いします。本セミナー以降に、校内などでセミナー、研修会など開催する予定はありますか。あなたの考えに合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）

セミナー、研修会などの開催する
  現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい  
 セミナー、研修会など開催の予定はない
  その他

(15) 【自由記述設問】開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものでしょうか、ご記入ください

(16) 【自由記述設問】最後に、全体を通してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

アンケートへのご協力ありがとうございました。

2 / 2  
 情報モラルセミナーアンケート  
 (2014年度)

### 1) 受講者プロフィール

セミナー受講者のプロフィールを図表 14 から 18 にまとめた。

#### ① 性別年代別受講者数

どの年代においても、男性受講者の方が多い。年代別ではこれまでは通常 30、40 歳台が多かったが今年度は 50 歳台が半数近くを占めている結果となっている。

図表 1 4 性別年代別受講者数（単一選択）

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	無回答	合計
男性	17	11	18	46	6	0	0	98
	17%	11%	18%	47%	6%	0%	0%	
女性	12	11	10	24	0	0	1	58
	21%	19%	17%	41%	0%	0%	0%	
無回答	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	29	22	28	70	6	0	3	158
	18%	13%	17%	44%	3%	0%	1%	100%

#### ② 学校種別受講者数

全国の学校種別の教員の人数が、小学校：中学校：高等学校＝1.0：1.6：1.1であることを鑑みると、小学校の教員の受講比率が大きくなってきている。

図表 1 5 学校種別受講者数（単一選択）

学校					行政	その他	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他				
94	47	8	5	0	2	0	2	158
59%	29%	5%	3%	0%	1%	0%	1%	100%

#### ③ 役職別受講者数

一部の熱心な校長先生や副校長先生が受講されているが、今年度は教頭先生向けのセミナー企画があり40%弱の比率になるが、通年では教諭が圧倒的に多い。その他は、行政職かICT支援員である。

図表16 役職別受講者数（単一選択）

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
1	1	60	85	3	8	0	158
0%	0%	37%	53%	1%	5%	0%	100%

④ 分掌分野別受講者数

勤務校で情報教育を担当されている先生が多いが、2020年4月から新学習指導要領の全面实施となったため、「教科指導」担当の先生も多い。また、その他が多いのは「教頭先生」の学校運営管理業務の数と予測される。

図表17 分掌分野別受講者数（複数選択）

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	合計
39	16	10	41	14	62	182
24%	10%	6%	25%	9%	39%	

⑤ 担当教科別受講者数

担当教科別に特に偏りは無い。

その他は、中学校の教頭もしくは行政職・ICT支援員と予測される。

図表18 担当教科別受講者数（複数選択）

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
72	0	10	6	11	5	10
英語	音楽	美術	書道	保健体育	その他	合計
5	2	1	1	2	31	156

2) 受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

セミナー受講者のこれまでの情報モラル研修との関わりを図表 19 から 21 にまとめた。

① 過去の受講経験

過去に情報モラル研修を受講したことの無い先生の方が多かった。

図表 19 過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
62	93	2	157
39%	59%	1%	

② 過去の講師経験

過去に情報モラル研修を企画したことが無い先生の方が多かった。

図表 20 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
12	141	5	158
7%	89%	3%	

③ 本セミナーの受講動機

「上司からの指示」の割合は少なくなっているが、積極的に受講されている先生は少ないと思われる。その他は悉皆研修となっているセミナーの参加者と予測される。

図表 2 1 本セミナーの受講動機（単一選択）

1：情報教育の担当をしているため	38	24%
2：情報モラル指導のレベルアップのため	52	32%
3：上司からの指示があったため	45	28%
4：その他	54	34%
回答数	189	

3) 本セミナーに対する評価

セミナー受講者のセミナー評価を図表 22 から 23 にまとめた。

① 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

97% の受講者が有用と考えている。

図表 2 2 本セミナーの有用度（単一選択）

参考にならない <<<<<< 参考になる			
1	2	3	4
2	3	43	105
1%	1%	28%	69%
		3or4 の回答比率	
		97%	

② 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

99% の受講者が教材を活用できると考えている。

図表 2 3 本セミナー教材の有用度（単一選択）

活用できない <<<<<< 活用できる			
1	2	3	4
0	2	52	101
0%	1%	34%	65%
		3or4 の回答比率	
		99%	

4) 今後のセミナー開催予定

セミナーの開催を具体的に考えている先生が少ないことは今後の課題と考えている。

図表 2 4 今後のセミナー開催予定（単一選択）

1. セミナー、研修会などの開催する	14	8%
2. 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい	85	53%
3. セミナー、研修会など開催の予定はない	50	50%
4. その他	9	5%
回答数	158	

## 4. 教育の情報化推進フォーラム

当事業の活動内容を広く広報するための、2021年度 教育の情報化推進フォーラムでは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、通常の国立オリンピック記念青少年総合センター会場での開催を中止し、オンライン開催に変更して実施した。今回は「GIGA スクール 1人1台の情報モラル教育とは？」と題して分科会 ZOOM ウェビナーにおいて実施した。

分科会の概要は以下の通りであった。

・開催日時 令和3年3月5日 15時15分～16時15分

・オンライン開催：ZOOM ウェビナー2

〈以下は、参加者の URL 例〉

<https://online-conference.jp/Suishinforum2020/email/verify/29831/6d3c69d998a6160a1074eaa971bf25c13f31c6e6?expires=1614661063&signature=e81adc21f1c5dadd5751625e3e3878b72bfacce8d1efdf0729b9b3aced9d9e78>

・役割分担 コーディネータ：藤村委員長--主旨説明、基本的考え方、最新の動向、事例等

パネリスト：石原委員----ペープサート教材の紹介と主体的・対話的な活用

榎本委員----図鑑型教材の紹介と活用例

西田委員----GIGA スクール構想と動画教材の紹介と活用

木村委員----動画教材・保護者向けネットモラル・コミック

「モラコミ通信！」の紹介・活用

三宅委員----ナビカード教材の紹介と活用事例

・来場者数 192名

・趣旨 「情報モラル」について、GIGA スクール構想による児童生徒1人1台PC環境における取り扱いを中心にパネルディスカッションを実施する。

・プログラム 15：15-15：25 藤村委員長：本パネルディスカッションの趣旨、GIGA スクール構想と情報モラルの動向について

15：25-15：33 石原委員：ペープサート教材の紹介と活用事例について

15：33-15：41 西田委員：動画教材の紹介と幼児の情報モラルについて

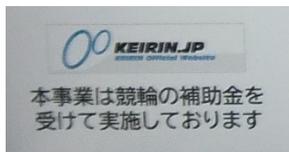
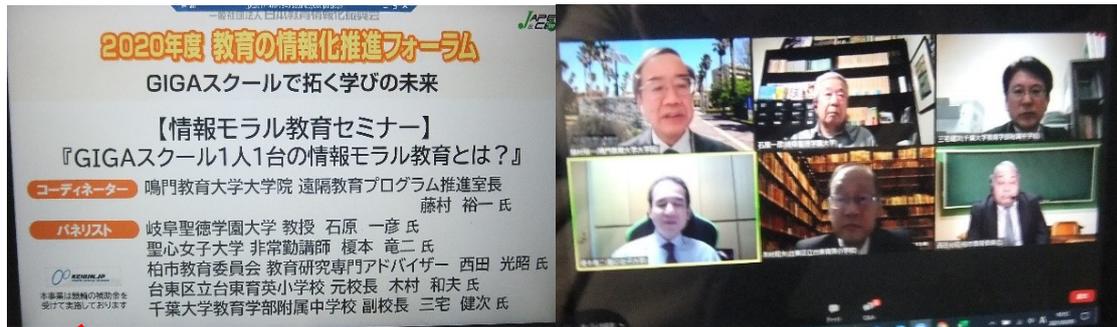
15：41-15：49 榎本委員：図鑑型冊子教材の紹介と活用事例について

15：49-15：57 三宅委員：ナビカード教材の紹介について

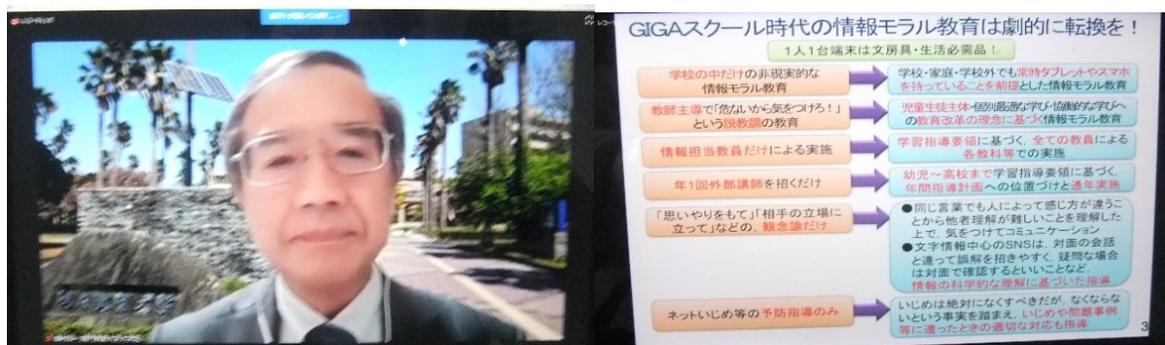
15：57-16：05 木村委員：モラコミ教材の紹介について

16：05-16：15 全員：討議・質疑応答・総括

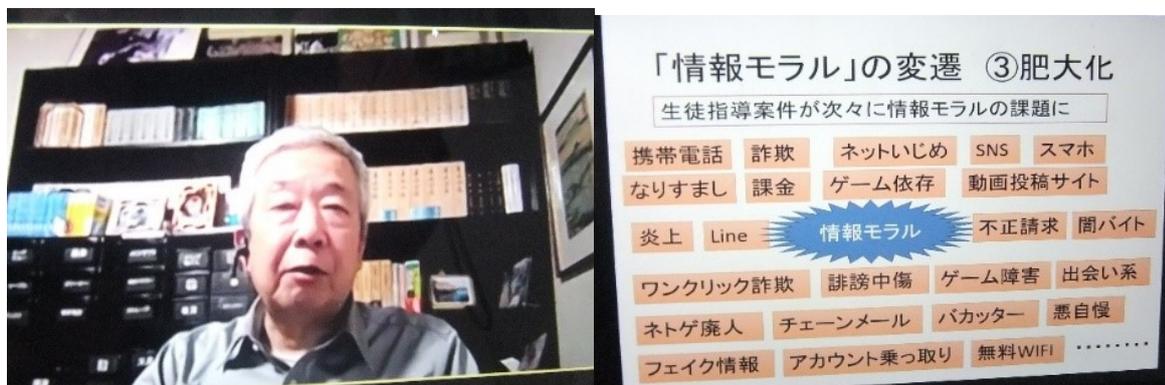
図表30 パネルディスカッションの様子（セミナー開始・登壇者全員）



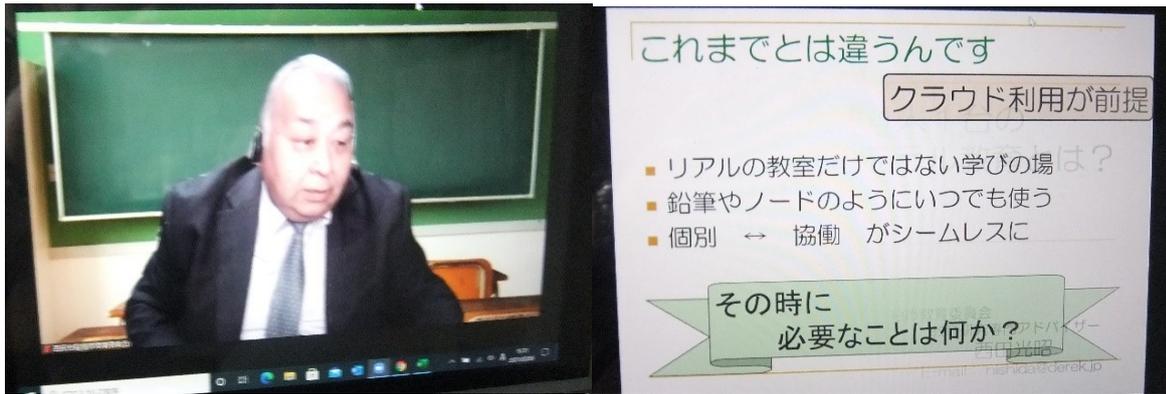
図表31 パネルディスカッションの様子（藤村委員長）



図表32 パネルディスカッションの様子（石原委員）



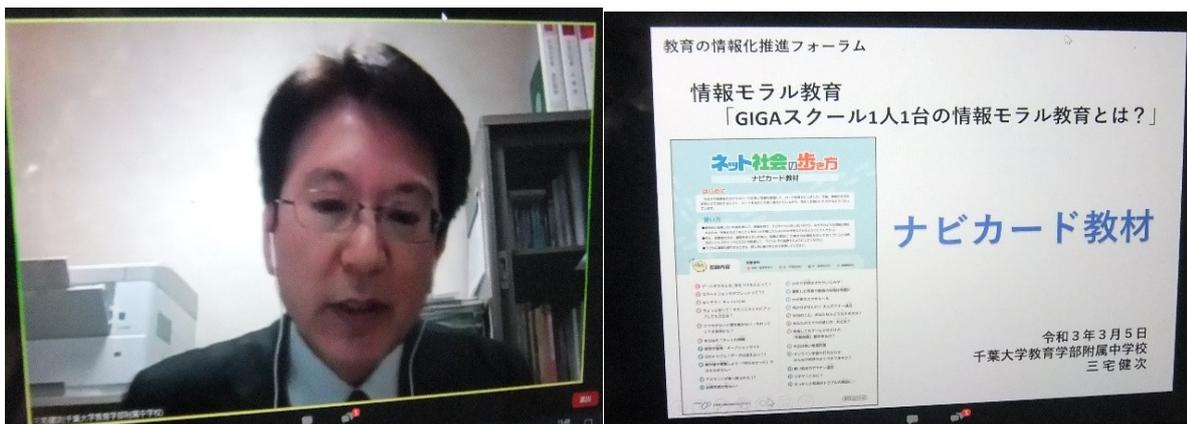
図表 3 3 パネルディスカッションの様子 (西田委員)



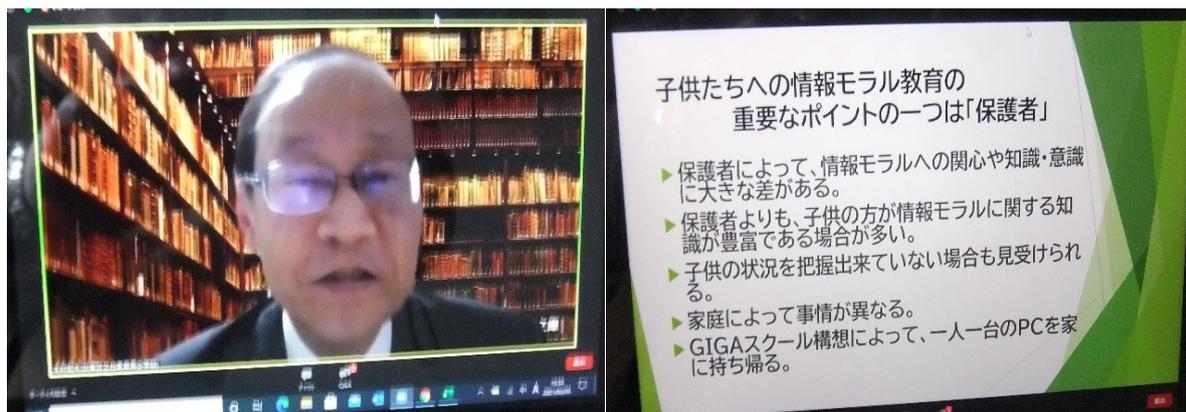
図表 3 4 パネルディスカッションの様子 (榎本委員)



図表 3 5 パネルディスカッションの様子 (三宅委員)



図表36 パネルディスカッションの様子（木村委員）



## 5. 今年度作成したコンテンツの概要

### (1) 新規学習ユニット10テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら、情報モラルについて学習できるようになっている。

#### ①本当のこと、あなたならどう伝えますか？

<校種>

小中

<教科>

学級活動・道徳・総合

<学習内容>

「GIGAスクール構想」などによる、  
情報環境の進展を見据え、ネットワークの  
有効活用を学ぶ。また新しい時代に求めら  
れる資質や能力を理解する。



②18歳で成人だね

<校種>

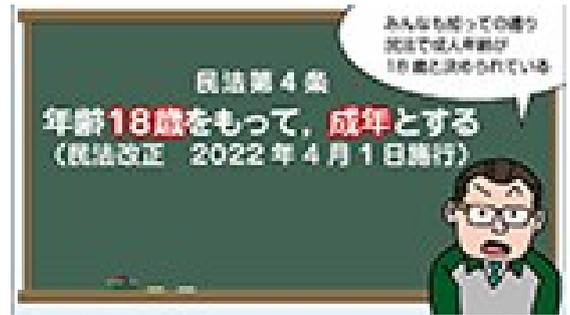
高

<教科>

家庭・公民・情報・学級活動・総合

<学習内容>

18歳成人の意義と、留意点を知る。



③「なりすまし」に気づいたら

<校種>

小中高

<教科>

学級活動

<学習内容>

SNS上で、自分のなりすましで情報発信をされてしまうことがあることを知り、その時にどのような対応をしたらいいかを考える。



④ペアレンタルコントロールで安心!

<校種>

保護者

<教科>

—

<学習内容>

ペアレンタルコントロールの必要性を認識する。

※本学習指導案とワークシートは、保護者セミナー等でもご利用いただけます。



## ⑤生徒会活動でスマホルールを作ろう!

<校種>

中高

<教科>

総合・特別活動

<学習内容>

生徒自らスマホのルールを決めることを通して、自分たちでルールを守っていくことの大切さ、ルール作りのポイントを知る。



## ⑥大人なのにダメじゃない

<校種>

小中高+保護者

<教科>

学級活動・道徳・情報

家庭・社会

特別活動

<学習内容>

誰もがやりがちな「ながらスマホ」のトラブルを大人の行動から逆に反省して学ぶ。



⑦詐欺メール!絶対に押すなよ

<校種>

中高

<教科>

家庭・公民・情報・

学級活動・総合

<学習内容>

フィッシング詐欺や成りすましなどの

見分け方のポイントと、適切な対処方法を学ぶ。



⑧ステマってなに?

<校種>

小中高

<教科>

総合・学級活動・技術家庭

<学習内容>

ステルスマーケティングという宣伝方法が

インターネットや通信販売で行われている場合があり、購入する場合のポイントを学ぶ。



⑨～パスワード～

自分の大切なものを守る『鍵』

<校種>

小中

<教科>

道徳・学級活動

<学習内容>

パスワードを設定して、スマートフォンやタブレットを安全に使うことを学ぶ。



⑩軽い気持ちでマナー違反

<校種>

中

<教科>

情報・総合・学級活動

<学習内容>

いけないとわかっているにもかかわらず、友達という

と気が緩み、軽い気持ちでマナー違反をし

てしまうことがあることをスマホの事例を通して考える。



●ペープサート教材2 追加素材集

ペープサートは紙人形のこと、プレゼンテーションソフトなどを用いて電子的に表情、ボディ、背景を組み合わせてストーリーを制作するための部品を提供。

キャラクターを用いて児童・生徒が自ら「ネット社会の歩き方」に関する道徳教材を作成することにより、ロールプレイ型の授業に発展。ペープサート教材1と合わせて利用する。



●保護者向けネットモラル・コミック（追加6本）

学校から保護者へ情報提供して、ICTの慎重な取り扱いを促すことで、家庭教育に利用可能。

以下の6巻を追加。

- ①異世界のつもりでイイ気になってたら友達をなくした
- ②実録!トッペルゲンガー!
- ③写真をアップしただけなのに・・・
- ④SNSは勘違いでできている!
- ⑤スマート帝国の野望!!
- ⑥自信過剰は自己のモト!



●ナビカード教材（追加10本）

小学校低学年、小学校・中学校、中学生・高校生、保護者のための情報モラル教材。  
以前の13カードに加え、10カード+目次を追加。先生方や保護者の方からのニーズの  
高い問題を厳選して、カード型教材にした。

- ⑭わが家のスマホルール
- ⑮見かけませんか？ 大人のマナー違反
- ⑯本当のこと、あなたならどう伝えますか？
- ⑰あなたのスマホの使い方、大丈夫？
- ⑱無視してもゲームできるけど、「年齢制限」意味あるの？スマート帝国の野望!!
- ⑲本当は怖い使用許諾
- ⑳オンライン学習や打ち合わせ みんなで気持ちよくできてますか？
- ㉑軽い気持ちでマナー違反
- ㉒ステマってなに？
- ㉓せっかくの写真がトラブルの原因に…



## 6. まとめ

近年のICT機器の進展は目覚ましく、個々のハードウェアやソフトウェアに対応した情報モラル教育は事実上不可能になっている。学校教育でよく言われる「流行と不易」を、教える側が良く考え取り組む必要がある。

スマートフォン、携帯ゲーム機の普及により、平易にいつでもどこでもインターネットを利用できる環境が子どもたちに急速に拡大した。それらの変化により誹謗中傷や言葉不足からのいじめ、ネット犯罪の被害や更に加害者となる事例、生活に支障をきたすまでのネット利用などの事例が更に深刻化した。今回の事業は、子どもたちに有効な情報モラル指導を実施させ、充実したコミュニケーションを取れるための指導を行い、更にネット依存の手前で立ち止まるための指導を行えるための対策とした事業を実施した。

ここにおいて、公益財団法人JK Aの補助金を原資として、日本教育情報化振興会が情報モラル指導の教材開発と教員向けセミナーを開催することは非常に社会的に価値があると考えている。文部科学省の学習指導要領に基づいた「不易」の部分に関する指導方法の研修と、マスコミへの掲載記事に基づいた「流行」の部分に関する最新の事故、事件、リスク回避方策の伝達は、日々児童・生徒と接している教員にとって指導時の参考になっている。

日本教育情報化振興会では、「不易」な面での道徳を中心とする「心を磨く」領域の教材提供に特に力を入れていきたい。一方で、「流行」の面では情報を中心とする「情報の知識」「情報の理解」領域の教材提供に力を入れていきたい。来年度は、教員向けセミナーの開催（21ヶ所）と新しい問題や事件に対応した学習教材の開発を予定している。教育委員会よりセミナーの開催数の増加の要望もきているため、できる範囲で対応していきたいと考えている。

また、新規開発予定の教材の特徴については、以下の通りである。

- ・動画ユニット教材新規開発（10本）
- ・ペーパーサート教材のイラストの種類増（背景、人物等）
- ・保護者向けモラルコミック教材（残りの6冊子）
- ・なびカード教材の補完（10テーマ＋目次）

最後に、少しでも多くの教員が情報モラル指導を実践できるよう、日本教育情報化振興会および委員全員が啓蒙活動に邁進する所存である。

以 上

## 第2章

### コミュニケーション力育成のための事業

## 1. 事業の目的

2020年度から全面実施される小学校学習指導要領では、情報活用能力が言語能力に並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。また、中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）において、「情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと」としている。

そして、情報活用能力の重要性が最初に指摘されてから、すでに30年以上経過しているが、教員の認知度は決して高いとはいえない状況である。

また、様々な情報活用能力に関する表や整理が出ているが、「分かりにくい」「使いにくい」という声を聞く。さらに、自治体や研究会が作成しているものが乱立していて、「拠り所がわからない」という声も聞く。

2020年度は、2019年度に調査研究の成果としてまとめた「情報活用能力の体系整理（基礎編）」と情報活用能力調査の実態結果を盛り込みながら、現場の先生方が、子どもたちの情報活用能力を育成する授業を行う際に、実践しやすく解説したものを「情報活用能力ベーシック」として開発した。

また、それを活用した実践として、模擬授業セミナーを行った。

さらに「情報活用能力ベーシック」を全国の教育関係者に啓蒙するために、パンフレットを制作し、ホームページに掲載した。以下にその詳細を報告する。

## 2. 作業項目とスケジュール／作業体制

### (1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである。

図表1 作業スケジュール

作業項目	2020年										2020年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
委員会開催					▼① 30				▼WG 4			▼② 13	
教科別能力表開発	▲-----▼												
セミナー開催							▼① 29 大阪					▼② 5,6 東京	
冊子教材制作	▲-----▼												
	2020年										2021年		

### (2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「情報活用能力育成検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全2回の委員会と1回のWG会議を計画し、作業スケジュールの策定、情報活用能力に関する能力表作成の検討及び作成等、本事業の全体を管理した。

また、情報活用能力に関する能力表の冊子教材の実作業、セミナー開催準備等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
放送大学	教授 中川 一史 (委員長) *
茨城大学	准教授 小林 祐紀 (副委員長) *
放送大学	客員教授 佐藤 幸江*
東北学院大学文学部	教授 稲垣 忠
熊本大学大学院 教育学研究科	准教授 前田 康裕*
千葉県総合教育センター	所長 秋元 大輔
鳥取県教育センター教育企画研修課	係長 岩崎 有朋

柏市立手賀東小学校	校長	佐和 伸明
金沢学院大学文学部教育学科	専任講師	山口 眞希

(注) ※ : WG メンバー

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	調査・研究開発部 部長 吉田 真和	総括
同上	普及促進部 担当部長 渡邊 浩美	連絡窓口・全体企画・運営・セミナー対応

### (3) 委員会開催

委員会開催の他、メールによる検討・決議を行った。委員会の開催日、議題は下記の通りである。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、すべてオンライン開催となった。

図表 4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第 1 回	2020. 8. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新委員ご紹介</li> <li>・今年度の活動方針（中川委員長）</li> <li>・予算化の活動について（事務局渡辺）</li> <li>・情報活用能力指導調査（稲垣委員）</li> <li>・具体的な活動について（小林委員）</li> <li>・模擬授業のテーマ・担当講師</li> <li>・成果物について</li> <li>・情報活用能力の体系整理（基礎編）</li> <li>・全体スケジュールについて</li> </ul>
WG 第 1 回	2020. 12. 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>第一回委員会の検討項目進捗</b></li> <li>・ <b>二年目の活動方針</b></li> <li>・ <b>来年度セミナー開催</b></li> </ul>
第 2 回	2020. 3. 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の事業における活動内容についての成果と課題</li> <li>・情報活用能力ベーシックの開発</li> <li>・「情報活用能力を意識した授業展開」模擬授業指導案作成</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度の活動方針</li> <li>・ 来年度に向けての活動について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報活用能力調査2021</li> <li>・ 「最終アウトプット提出テンプレート」と「手引き」の作成</li> <li>・ 情報活用能力ベーシック活用事例の作成</li> <li>・ 中学校ベーシックの先行整理（社会、理科のみ）</li> <li>・ 各教科ベーシックの分析結果の発表</li> <li>・ 模擬授業の実施</li> </ul> </li> </ul>
--	--	--

### 3. 小学校版教科別能力表開発「情報活用能力ベーシック」

2019年度に調査した「情報活用能力に関する理解とその指導状況」の結果及び児童生徒の情報活用能力を育成するためにどのような授業力をつけるべきか小学校の新学習指導要領における「情報活用能力」に関わる表現についての調査をもとに、2020年度は、情報活用能力の基本となる体系の整理を行い、「情報活用能力ベーシック」を開発した。

#### (1) 学習指導要領上の情報活用能力に関する教科の特徴をまとめた「最終アウトプット」

昨年度の調査研究で、小学校の「学習指導要領」および「学習指導要領解説」について、各キーワードがどのように使用されているかを網羅的に調べ、出現個所の「教科」「学年」「具体的記述」等を洗い出した。その結果、小学校の12の教科である、国語、理科、算数、社会、家庭科、図工、体育、生活道德、特活、外国語、総合について、合計およそ3,500か所における記述を洗い出すことができた。その結果から今年度は、授業を実施する際に拠り所となる学習指導要領等をもとに、基本となる5つの学習プロセス（【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り・改善】）及び13のキーワード（発見・収集・整理・比較・処理・統計・形成・発信・伝達・表現・創造・振り返り・改善）から構成される情報活用能力ベーシックを開発した。今年度は、情報活用能力ベーシックを構成する13のキーワードを用いて、各教科・領域の学習指導要領を確認し、情報活用能力に関する各教科の特徴をまとめた「最終アウトプット」を示した。

#### ①理科

##### 【課題の設定】

差異点や共通点を基に問題を発見する。

##### 【情報の収集】

無し

**【整理・分析】)**

自然事象の様子に着目して、それらを比較しながら調べ、その結果を表などに整理して考察などに使えるように処理する。

**【まとめ・表現】)**

問題を見出し、表現する。根拠のある予想や仮説を発想し、表現する。

解決の方法を発想し、表現する。より妥当な考えをつくりだし、表現する。

**【振り返り・改善】)**

予想や仮説、観察や実験など探究の過程を振り返り、見直しや再検討を行う。

**【理科における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

自然事象の実験や観察を通して、差異点や共通点に気づき、どうしてそうなるのかという問題意識を持つとともに、根拠のある予想や仮説を立てる。次に、その予想や仮説を明らかにする解決の方法を発想し、具体的な方法にまで整える。その方法で、改めて自然事象を観察したり、実験を行なって結果を得たのち、それらを表などに整理して考察などに使えるように処理する。それを元により妥当な考えを作り出し、根拠をもって伝えたりする。また、これらの探究の過程を振り返り、仮説の見直しや実験の再検討を行う。

②道徳

**【課題の設定】**

日常生活や道徳の教材に触れる中で、道徳的価値の理解を基に自己を見つめる。

**【情報の収集】)**

他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に捉える。

**【整理・分析】)**

書く活動や説話の工夫など指導方法の工夫をして、児童に問題意識をもたせ、主体的に考え話し合い、判断することが出来るようにする。

**【まとめ・表現】)**

問題解決的な学習、体験的な学習を通して物事を多面的・多角的に考え、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解する。

**【振り返り・改善】)**

自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて進んで見直しながら、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見詰め、自分はどうすべきか、自分に何が出来るかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善を行う。

**【道徳における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

日常生活や道徳の教材に触れる中で、自己を見つめ、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に捉え、書く活動や説話の工夫など指導方法の工夫をして、児童に問題意識をもたせ、主体的に考え話し合うことが出来るようにする。そして、問題解決的な学習、

体験的な学習を通して自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて進んで見直しながら、自分はどうすべきか、何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにする。

### ③体育・運動

#### 【課題の設定】

運動に関する課題を発見する。

#### 【情報の収集】

なし

#### 【整理・分析】

課題を見だし他者と協働しながら解決したり、自分の考えを形成し伝え合ったり、思いや考えを基に創造したりするために情報を捉えて多角的に精査する。

#### 【まとめ・表現】

グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり、学習カードや ICT 機器を活用したりして、つまづいていた技や演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり、映像を活用して発表したりする。運動についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。

#### 【振り返り・改善】)

技のできばえを振り返ったり、自己評価したりする。

#### 【体育・運動における情報活用能力を意識した授業展開とは】

運動に関する課題を発見し、その課題を他者と協働しながら解決したり、自分の考えを形成し伝え合ったり、思いや考えを基に創造したりするために情報を捉えて多角的に精査する。そして、グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり、学習カードや ICT 機器を活用したりして、つまづいていた技や演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり、映像を活用して発表して振り返り、自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。

### ④特活

#### 【課題の設定】

集団や自己における課題を発見する。

#### 【情報の収集】

適切かつ必要な情報を児童が自ら収集する。

#### 【整理・分析】)

問題の原因を整理、処理して、解決に向けての方向性をはっきりとさせる。

また、他教科との関連から学級活動や児童会活動などで行われる調査・統計を用いて分析する。

**【まとめ・表現】)**

自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして集団としての意見を合意形成する。活動を通して学んだことをまとめて発表したり、保護者や地域へ発信したりする。楽しく豊かな学級や学校の文化を自発的、自治的に創造する。

**【振り返り・改善】)**

実践を振り返り、改善しながら見出した課題を克服したり、掲げた目標を達成しようとする。体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする。

**【特活における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

集団や自己における課題（問題）を発見し、適切かつ必要な情報を児童自らが収集する。そして、課題（問題）の原因を整理しながら、自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして集団としての意見を合意形成する。最終的に合意形成したことがらについて実践し、実践を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりして、さらなる実践の改善に資するようになる。

**⑤総合的な学習の時間**

**【課題の設定】**

日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つける。

**【情報の収集】)**

具体的な問題について情報を収集する。

**【整理・分析】)**

整理は、課題の解決にとってその情報が必要かどうかを判断し取捨選択することや、解決の見通しにしたがって情報を順序よく並べたり、書き直したりすることなどを含む。分析は、整理した情報を基に、比較・分類したりして傾向を読み取ったり、因果関係を見付けたりすることを含む。複数の情報を組み合わせて、新しい関係性を創り出すことも重要である。

**【まとめ・表現】)**

相手や目的に応じてより分かりやすく伝わるように、比較する、分類する、関連付けるなどの、「考えるための技法」を活用しながら、より論理的で効果的な表現を工夫したり、学習を振り返る中で、より物事や自分自身に関して深い気付きとなるよう内省的な考え方が深まるようにしたりしていく。

**【振り返り・改善】)**

整理・分析された情報からは、自分自身の意見や考えをまとめて、それを表現する。他者との相互交流や表現による振り返りを通して、課題が更新されたり、新たに調べることを見いだしたり、意見や考えが明らかになったりする。

**【総合的な学習の時間における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、具体的な問題について情報を収集する。

そこから、課題の解決にとってその情報が必要かどうかを判断し取捨選択することや、解決の見通しにしたがって情報を順序よく並べたり、

書き直したり、整理した情報を基に比較・分類したりして傾向を読み取ったり、因果関係を見付けたりする。さらに、相手や目的に応じてより

分かりやすく伝わるように、自分自身の意見や考えをまとめてそれを表現し、他者との相互交流や表現による振り返りを通して、

課題が更新されたり、新たに調べることを見いだしたり、意見や考えが明らかになったりする。

**⑥生活**

**【課題の設定】**

身の回りの日常の事象から様子や特徴を発見する。

**【情報の収集】**

目的を明確にしながらか調べたり体験したりして収集する。

**【整理・分析】**

自分や身の回りの自然の変化や成長の様子を比較する。

**【まとめ・表現】**

伝える相手や伝える目的を明確にしながらか様々な方法で発信する。

自分自身や自分の生活について考え、表現したり、まわりに働きかけてより良くしようと創造する。

**【振り返り・改善】**

自分自身の生活や成長を振り返る。

**【生活における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

身の回りの日常の事象から様子や特徴を発見し、目的を明確にしながらか調べたり体験したりして情報を収集する。

集めた自然の変化や成長の様子を自分の変化や身の回りの自然の変化と比べたりする。そのことを通して身近な自然や様々な事象の特徴や良さに気付くとともに、伝えたい内容や伝える相手を明確にしながらか、様々な方法で自分の考えを表現し、周りとは交流したり働きかける。

そうして日常の様々な事象との関わりの中で適切に振り返りを行い、自分自身の成長や生活について考える力を養う。

## ⑦図画工作

### 【課題の設定】)

自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、それを基に自分のイメージをもつ。

### 【情報の収集】)

自分の思いに合う材料を児童自身が集める。

### 【整理・分析】)

形や色などから分析的に見たり、意図や気持ちなどを読み取ったりするなど、作品などを深く捉えられるようになる。

### 【まとめ・表現】)

感じたこと、想像したことなどのイメージから、表したいことを見付けて、好きな形や色を選んだり、表し方を考えたりしながら、技能を働かせて表現を工夫する。

### 【振り返り・改善】)

自分たちの活動を通して自分にとってどのような意味や価値が作りだされたのかを振り返る。

### 【図画工作における情報活用能力を意識した授業展開とは】

自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、それを基に自分のイメージをもつ。

自分の思いに合う材料を児童自身が集める。形や色などから分析的に見たり、意図や気持ちなどを読み取ったりするなど、作品などを深く捉えられるようになる。感じたこと、想像したことなどのイメージから、表したいことを見付けて、好きな形や色を選んだり、表し方を考えたりしながら、技能を働かせて表現を工夫する。自分たちの活動を通して自分にとってどのような意味や価値が作りだされたのかを振り返る。

## ⑧社会

### 【課題の設定】

地域や生活などの社会的事象から課題を発見する。

### 【情報の収集】

調査活動や諸資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象に関する情報を適切に収集する。

### 【整理・分析】

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を捉え、どのような違いや共通点があるか比較・分類したり総合したり、どのような役割を果たしているか地域の人々や国民の生活と関連付けたりする方法で、考えたり選択・判断したりする。

### 【まとめ・表現】)

様々な資料や調査活動で得た情報を白地図や年表、図表などに効果的にまとめる。

また、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したり、文章で記述したりする。

**【振り返り・改善】**

学習を振り返り、学習成果を基に生活の在り方やこれからの国家及び社会の発展について考える。

**【社会における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

地域や生活などの社会的事象から課題を見だし、適切な収集手段を考えて必要な情報を集める。

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して集めた情報を読みとり、比較・分類したり統合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりし、選択・判断する。そして選択・判断したことをもとに話し合ったり、図表や文章にまとめたりする学習を通して、生活の在り方やこれからの国家及び社会の発展について考えことができるようにする。

**⑨算数****【課題の設定】**

日常の事象及び数学の事象を対象とした算数的な課題を発見する。

**【情報の収集】**

目的に応じて、データを収集する。

**【整理・分析】**

観点を定めてデータを分類整理し、それらを直接比較や間接比較、任意単位を用いた測定による比較を行う。

**【まとめ・表現】**

言葉や図、数、式、表、グラフなどを適切に用いて、数量や図形などに関する事実や手続き、思考の過程や判断の根拠などを的確に表現したり、考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて伝え合い共有したり、見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などを数学的に説明したりする。

**【振り返り・改善】**

このように、数学的に表現・処理したことや自らが判断したことを振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする。

**【算数における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

日常の事象及び数学の事象を対象とした数学的な課題を発見し、目的に応じて、データを収集する。

そして、観点を定めてデータを分類整理し、考えたことや工夫したことなどを言葉や、図、数、式、表、根拠などを数学的に説明したりする。このように、数学的に表現・処理したことや自らが判断したことを振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする。

## ⑨国語

### 【課題の設定】

無し

### 【情報の収集】

相手や目的を意識して、必要に応じた方法で複数の情報を収集する。

### 【整理・分析】

伝え合うために必要な情報かどうか、多様な観点から比較・分類して整理することで、伝えたいことを明確にする。

### 【まとめ・表現】

話の内容を分かりやすく伝えるために、事実や判断の根拠や理由を示しながら、表現を工夫して自分の考えを述べる。

### 【振り返り・改善】)

学習の過程やまとめの段階で、伝えたいことが伝わったかを振り返り、考えを再構成し、自分の考えをより深めていく。

### 【国語における情報活用能力を意識した授業展開とは】

相手や目的を意識して、必要に応じた方法で複数の情報を収集する。伝え合うために必要な情報かどうか、多様な観点から比較・分類して整理することで、伝えたいことを明確にする。そして、話の内容を分かりやすく伝えるために、事実や判断の根拠や理由を示しながら、表現を工夫して自分の考えを述べ、学習の過程やまとめの段階で、伝えたいことが伝わったかを振り返り考えを再構成し、自分の考えをより深めていく。

## ⑩外国語活動・外国語

### 【課題の設定】)

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき理解する。

### 【情報の収集】)

無し

### 【整理・分析】)

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成する。

### 【まとめ・表現】)

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、簡単な語句や基本的な表現の中から適切なものを選び、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。

**【振り返り・改善】)**

言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行い、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげる。

**【外国語活動・外国語における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き理解する。

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、状況等に応じて、簡単な語句や基本的な表現の中から適切なものを選び、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行い、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげる。

**①家庭科**

**【課題の設定】**

無し

**【情報の収集】**

調べたり、観察・実験・実習した結果について多様な観点から比較・検討したりする。

**【整理・分析】**

生活をよりよくする視点をもって情報を取捨選択し、図表・グラフ等に整理する。

**【まとめ・表現】**

実感を伴って理解できるように、発表のしかたを工夫する。

**【振り返り・改善】)**

計画どおりに実践できたこと、できなかったことなどを評価し、どのように改善して生活に生かしたらよいかを考えることができる。

**【家庭科における情報活用能力を意識した授業展開とは】**

家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境に関する課題解決に向けて、調べたり、観察・実験・実習した結果について多様な観点から比較・検討したりする。生活をよりよくする視点をもって情報を取捨選択し、図表・グラフ等に整理し、実感を伴って理解できるように、発表のしかたを工夫する。計画どおりに実践できたこと、できなかったことなどを評価し、どのように改善して生活に生かしたらよいかを考えることができる。

## ⑫音楽

### 【課題の設定】

自分にとっての音楽のよさや面白さを見いだす。

### 【情報の収集】

自分が表したい音やフレーズを探したり、音色、リズム、速度、反復、呼びかけとこたえなどの音楽を形づくっている要素を聴き取ったりする。

### 【整理・分析】

リズムや旋律、各声部の役割、曲全体の構成などの特徴を比較する。

ふさわしい音を選択したり表現のよさを判断したりする。

### 【まとめ・表現】

自分の思いや意図が聴き手に伝わるように表現したり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫したりする

### 【振り返り・改善】

なし

### 【音楽における情報活用能力を意識した授業展開とは】

自分にとっての音楽のよさや面白さ、表現のよさを見だし、自分が表したい音やフレーズを探したり、音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、音楽の特徴を比較したりする活動を通して、自分の思いや意図が聴き手に伝わるような表現を工夫できるようにすること。

#### 4. 小学校版教科別能力表「情報活用能力ベーシック」パンフレット制作

3項のまとめを受けて、全国の先生方に小学校版教科別能力表「情報活用能力ベーシック」を普及啓蒙するために、パンフレットを制作した。

##### (1) パンフレットページ構成

図表 5  
1 ページ 表紙  
開発趣旨説明





図表 7

5～7 ページ

各教科ごとの情報活用  
能力ベーシック

### 小学校各教科版情報活用能力ベーシック

各教科ごとに情報活用能力を位置づけた5つの学習プロセスの展開例を示します。

国語	社会
<p>●<b>課題の設定</b> 日常生活で経験したり感じたり考えたりしたことや想像したことから課題を設定する。</p> <p>●<b>情報の収集</b> 相手や目的を意識して、必要に応じた方法で複数の情報を収集する。</p> <p>●<b>整理・分析</b> 伝え合うために必要な情報かどうか、多様な観点から比較・分類して整理することで、伝えたいことを明確にする。</p> <p>●<b>まとめ・表現</b> 話の内容を分かりやすく伝えるために、事実や判断の根拠や理由を示しながら、表現を工夫する。そして自分の考えを述べる。</p> <p>●<b>振り返り・改善</b> 学習の過程やまとめの段階で、伝えたいことが伝わったかを振り返り、考えを再構成しながら、自分の考えをさらに深める。</p>	<p>●<b>課題の設定</b> 地域や生活などの社会的事象から課題を発見する。</p> <p>●<b>情報の収集</b> 調査活動や読資料の活用など手段を考えて問題解決に必要な社会的事象に関する情報を適切に収集する。</p> <p>●<b>整理・分析</b> 位置や時間的な広がり、時期や動向の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を捉え、どのような違いや共通点があるか比較・分類したり総合したり、どのような役割を果たしているか地域の人々や国民の生活と関連付けたりする方法で、考えたり選択・判断したりする。</p> <p>●<b>まとめ・表現</b> 資料や調査活動で得た情報を白地図や年表、図表などに効果的にまとめる。また、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに論議したり、文章で記述したりする。</p> <p>●<b>振り返り・改善</b> 学習を振り返り、学習成果をもとに生活の在り方やこれからの国家及び社会の発展について考える。</p>
算数	理科
<p>●<b>課題の設定</b> 日常の事象及び数学の事象を対象とした算数的な課題を発見する。</p> <p>●<b>情報の収集</b> 目的に応じて、データを収集する。</p> <p>●<b>整理・分析</b> 観点を定めてデータを分類整理し、それらを直線比較や間接比較、任意単位を用いた測定による比較を行う。</p> <p>●<b>まとめ・表現</b> 言葉や図、表、式、算、グラフなどを適切に用いて、数量や図形などに関する事象や手続き、思考の過程や判断の根拠などを体系的に表現したり、考えたことや伝えたいことなどを数学的な表現を用いて伝え合い共有したり、良い点したことや思考の過程、判断の根拠などを数学的に説明したりする。</p> <p>●<b>振り返り・改善</b> 数学的に表現・処理したことや自分が判断したことを振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする。</p>	<p>●<b>課題の設定</b> 発見点や共通点をもとに課題を発見する。</p> <p>●<b>情報の収集</b> 自然の事象・現象に直接触れ、観察や実験を通じて情報を得る。</p> <p>●<b>整理・分析</b> 自然現象の様子に着目して、それらを比較しながら観測、その結果を数などに整理して考察などに使えるように処理する。</p> <p>●<b>まとめ・表現</b> 観察や実験の結果を整理し、根拠のある予想や仮説を具現化し表現する。 解決の方法を具現化し表現する。より妥当な考えをつくりだし表現する。</p> <p>●<b>振り返り・改善</b> 予想や仮説、観察や実験など探究の過程を振り返り、見直しや再検討を行う。</p>

図表 8

8 ページ

情報活用能力ベーシック  
を活用した模擬授業

### 模擬授業

情報活用能力を「国語」の学習活動を通して実践能力を高めようとする。

＜国語「生命の不思議」＞  
「1人1台のタブレット端末」の活用により、日本の食料生産の現状について知り理解を深め、食料生産に関する問題を理解するための学習活動として実践能力を高めようとする。具体的には食料生産に関する3つの課題を解決するための学習活動として、1人1台のタブレット端末を用いて、食料生産の現状について知り理解を深めようとする。具体的には食料生産に関する3つの課題を解決するための学習活動として、1人1台のタブレット端末を用いて、食料生産の現状について知り理解を深めようとする。

必要と判別される場合は、1人1台のタブレット端末を用いて、食料生産の現状について知り理解を深めようとする。具体的には食料生産に関する3つの課題を解決するための学習活動として、1人1台のタブレット端末を用いて、食料生産の現状について知り理解を深めようとする。

＜国語「生命の不思議」＞  
「1人1台のタブレット端末」の活用により、日本の食料生産の現状について知り理解を深めようとする。具体的には食料生産に関する3つの課題を解決するための学習活動として、1人1台のタブレット端末を用いて、食料生産の現状について知り理解を深めようとする。

必要と判別される場合は、1人1台のタブレット端末を用いて、食料生産の現状について知り理解を深めようとする。具体的には食料生産に関する3つの課題を解決するための学習活動として、1人1台のタブレット端末を用いて、食料生産の現状について知り理解を深めようとする。




## 5. セミナー開催

### (1) 概要及びスケジュール

今年度は、4項で開発した情報活用能力ベーシックを活用して実践した模擬授業を関東と関西の2か所を開催した。しかし関東では、新型コロナウイルスの影響で模擬授業ではなく、実践発表となった。

図表9 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	02.10.29	大阪／関西教育ICT展・インテックス大阪	佐藤委員 岩崎委員	20名
第2回	03.3.5	実践発表／オンライン開催	佐藤委員 郡司委員 佐和委員	49名
第2回	03.3.6	パネルディスカッション／オンライン開催	中川委員長 小林副委員長 前田委員 秋元委員	242名
合計				311名

### (2) 概要

セミナーの開催地は以下の要領で行った。

#### 1) テーマ

「教科に特化した、子どもたちの情報活用能力を育成するためのポイントとは？」

#### 2) 開催時期と時間

令和2年10月29日開催「第5回関西教育ICT展」90分

令和3年3月5、6日開催「教育の情報化推進フォーラム」各70分\*

\*新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となった。

### 3) 対象受講者と会場あたりの定員

教職員 「第5回関西教育ICT展」 参加者 20名

新型コロナウイルスの影響で、定員を抑えての模擬授業実践となった。

教職員／教育関係者「教育の情報化推進フォーラム」 視聴者数49名／242名

新型コロナウイルスの影響で、オンライン開催となった。

### 4) 開催会場

座席数20名程度のセミナー会場(有料会場)

### 5) セミナーの具体的な内容

情報活用能力育成検討委員会と事務局の協議で決定する

### 6) セミナーのプログラム

テーマ：「教科に特化した、子どもたちの情報活用能力を育成するためのポイントとは？」

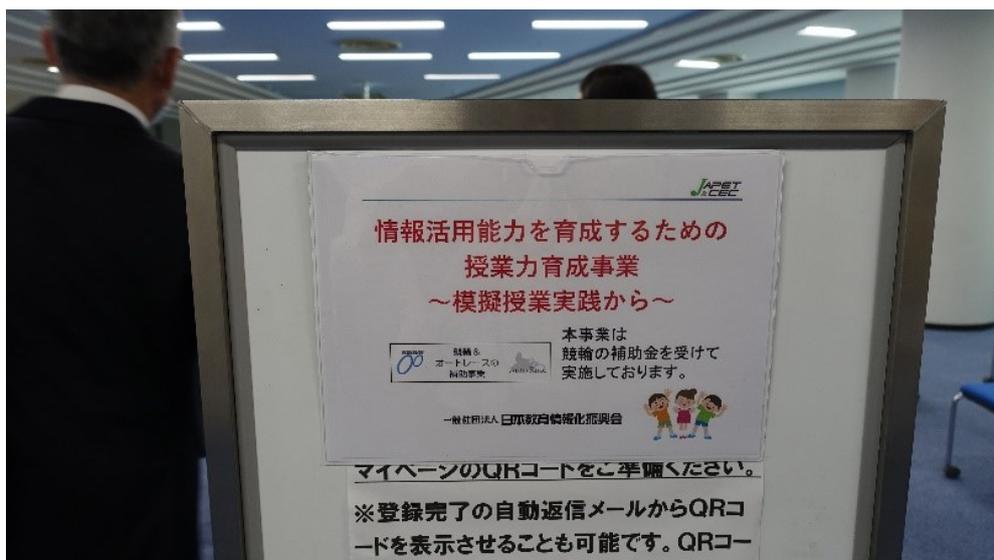
ー中学校理科の模擬授業実践からー

模擬授業：中学校3年理科「エネルギー資源とその利用」

模擬授業者：鳥取県教育センター教育企画研修課 係長 岩崎有朋委員

コメンテータ：放送大学客員教授 佐藤 幸江

図表10 関西教育ICT展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（令和2年10月29日）



図表 1 1 関西教育 I C T 展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（令和 2 年 1 0 月 2 9 日）

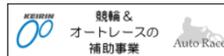


図表 1 2 関西教育 I C T 展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（令和 2 年 1 0 月 2 9 日）





**情報活用能力を育成するための  
授業力育成事業  
～模擬授業実践から～**



競輪 &  
オートレースの  
補助事業



Auto Race

本事業は  
競輪の補助金を受けて  
実施しております。

一般社団法人 日本教育情報化振興会



## 6 情報活用能力ベーシックを活用した模擬授業研究開発

委員の先生方に、情報活用能力ベーシックを活用した模擬授業指導案を作成してもらい、一部の先生方には実際に模擬授業を実施した。2021年度に本格的に実施するセミナーのために、模擬授業を研究した。

(1) 小学校第5学年 総合的な学習の時間 指導案

授業者 菊地 寛

1 単元名：レジ袋の環境面における課題は何か ～なぜレジ袋は有料化されたのか探ろう～

2 単元目標：

レジ袋がなぜ有料化されたのかその理由を環境面から調べたり、調べたことをまとめたりする活動を通して、収集した資料を整理し、友達と共に話し合いながら問題点を分析し、レジ袋を持続可能にしていくための方法に気づき、社会の一員としてどのような行動をしたらよいか考えることができる。

3 情報活用能力育成をめざす単元づくり（全8時間扱い）

(1) 単元について

SDGsの中でも環境に焦点を当てて本単元を構成し、レジ袋の環境に与える影響について考えることを通して、レジ袋の有料化の理由を探る。その際、環境に関する資料（グラフ、表など）を読み取る学習を行う。資料の読み取るには、「割合」、「円グラフ」の知識が必要であり、本単元と連携して、算数科での学習を横断的に行うことにする。資料は4種類用意し、「資源」、「生物への影響」、「温暖化」、「対策」に分かれて、ジグソー学習で、追究学習を行う。ジグソー学習を行うことで、一人一人に責任をもたせながら、追究する意欲を持続させることが期待する。資料で読み取ったことをグループで整理する際に、付箋紙を用意し（タブレット上でアプリで整理することもできる）思考を視覚化して、分かりやすく構造化して整理ができるようにする。そして、単元の終末には、追究してきたことから、自分なら社会の一員として何ができるのか一人一人が考え、宣言（アジェンダ）として、意識表示をする。

また、ICT活用することで、情報を効率よく収集することができる。また、情報の収集から整理、伝達・共有までオールインワンで行うことができるよう、学習者1人1台のタブレット端末を活用する。

## (2) 学習計画

時	学習内容	留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のゴールイメージをもつ。</li> <li>学習計画を立てて、単元の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○レジ袋の有料化の新聞記事から動機付けをする。</li> <li>○レジ袋の利点についてはここで触れる</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師が資料を用意し、3つのエキスパートグループを作り、ジグソー学習の準備をする。</li> </ul>
3 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジグソー学習で、追究をする。</li> <li>3つのエキスパートグループで追究をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※&lt;本時案参照&gt;</li> <li>※本時では、ジグソー学習と情報共有の部分を1時間としてまとめている。</li> <li>○エキスパートグループで追究したことをもとの学習グループで情報共有する。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習グループで情報を共有する。</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちにできることは何か考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○追究してきたことから、自分たちにできることは何か考え、提言をする。</li> </ul>

## (3) 本時について (本時 3/6 時間)

発見		収集		整理	◎	判断	
表現		発信		評価		改善	

**本時目標：**ジグソー学習で課題を追究し、調べた情報を整理して構造化することができる。。

**本時展開：**

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 (3分)	1. 本時の活動の見通しをもつ。 前時までにジグソー学習で、エキスパートグループで追究してきた続きを行うことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時までに、追究してきたことを想起する。</li> </ul>
展開① (5分)	2. エキスパートグループで追究活動を行う。 <b>【協働の学び】</b> それぞれの資料を読み取り、各テーマについてレジ袋の環境に与える影響はどんなものか、エキスパートグループ(「資源」、「生物への影響」、「温暖化」、「対策」)ごとに、話し合いながら、追究したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【タブレット端末】資料から読み取ったことをタブレット端末にまとめる。</li> <li>●資料の読み取りについては、算数の学習を活かすように助言する。</li> </ul>

<p>展開② (25分)</p> <p>終末 (10分)</p> <p>次時予告(2分)</p>	<p>を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源：石油は50年後に枯渇してしまう。</li> <li>・生物：海でマイクロプラスチックも問題。プラゴミ輸出。</li> <li>・温暖化：二酸化炭素の増加</li> <li>・対策：量り売り。バイオマス</li> </ul> <p>3. 元グループで情報を共有する。</p> <p>3-1【協働の学び①】 エキスパートグループで追究してきたことをタブレット端末を用いて、グループで視点を決めながら、情報を整理し、構造化する。書き込みをして分かりやすく整理して、まとめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラゴミは石油から出来ていて、焼却処理をすると二酸化炭素炭素を出し、温暖化につながる。(視点：温暖化)</li> <li>・資源が限られているから、プラ製を使わないようにしていくべきではないか。(視点：自分にできること)</li> </ul> <p>3-2【個の学び】 構造化したものをもとに、レジ袋の問題点について分かったことを個人で考える。</p> <p>3-2【協働の学び②】 構造化し整理したものから、分かったことをもとに、レジ袋の環境面に対する問題点について、個人の考えをもとに、全体を俯瞰して話し合い活動を行う。</p> <p>4. 全体交流をする。</p> <p>各グループで構造化し、話し合ったことを全体で交流し、互いのグループの意見を補い合う。</p> <p>5. 追究したことをもとにして、自分にできることは何か考え、宣言をすることを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●【タブレット端末】ジグソー学習で追究してきたことを元グループで、タブレット端末を使って情報共有する。まとめる視点はグループで話し合って決める。</li> <li>●構造化したものを俯瞰して、全体像を把握した上で、何が問題なのか考える。</li> <li>●グループで話し合ったことを全体で交流しながら、互いの足りないことを補う。</li> </ul>
--	---	---

※本時における「情報活用能力の『整理』」のポイント

本時は、それまで収集してきた情報をレジ袋の問題点を明らかにするために、視点を考えながら、整理する。

ばらばらに調べてきたことが繋がりを持つことが分かり、構造化することで視覚化ができて全体像がつかめることが期待できる。

1 単元名：おすすめの1冊 ～クラスの友達が読みたくなる本の推薦カードを作ろう～

2 単元の目標：

○おすすめの本を推薦するために多様な視点から読書すると共に、読書の魅力に気付くことができる。  
(知識及び技能(3)オ)

◎複数の本や文章を読み比べながら、推薦したい本の内容や特徴を基にして、自分の考えをまとめることができる。(思考力、判断力、表現力等 読むこと(1)オ)

○相手や目的に応じて推薦したい本を選び、その本についての魅力や自分の考えをまとめていこうとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 情報活用能力育成をめざす単元づくり (全6時間扱い)

(1) 単元について

事物を推薦し、相手に考えを受け入れてもらうためには「その事物の内容」「他と比べて優れていること」「それを選ぶことでどんな効果が期待できるか」など説明する必要がある。根拠を持って相手を説得するためには、まず目的・条件を理解し、それらに合致した推薦内容を考えなければならない。そして、より説得力を持たせるためにその事物にまつわる情報を収集・選択・関連付けて推薦する理由とする必要がある。さらに、提示する資料や伝え方を吟味することが大切であり、これらの活動を通して情報活用能力の育成が期待できる。

また、ICT活用することで事物を推薦する根拠となる情報を効率よく収集することができるとともに、グラフ、写真、動画など表現方法の選択肢も増える。今回は情報の収集から伝達・共有までオールインワンで行うことができるよう、学習者1人1台のタブレット端末を活用する。

(2) 学習計画

時	学習内容	留意点
1	・単元のゴールイメージをもつ。 ・学習計画を立てて、単元の見通しをもつ。	○教師作成のモデルを見せて、ゴールを掴ませる。 ○推薦と紹介の違いに気づかせて、児童と共に「推薦の技」としてまとめる。
2	・学校図書館の読書利用表や読書記録をふり返り、どのようなジャンルの本を読むと読書経験が広がるか考え、推薦したい相手や目的を明確にして、推薦する本を決める。	○一定の期間を設けて、どのような本を読むとよいか考えたり、本を探して読む時間を確保したりしておく。「あらすじ」カード、「おすすポイント」カードをどんどん蓄積しておく。
3	・本を読んだり、意見を交流し合ったりして、自分の推薦したい相手や目的にぴったりの「おすすポイント」を決める。	<本時展開参照>
4	・キャッチコピーや推薦理由を工夫して、推薦	○推薦する相手や目的に応じて、本の内容や特徴を基に、推薦理由や推薦内容として考えたことを

	カードを作る.	まとめさせる.
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本を学級の友達に推薦する.</li> <li>・推薦された本から読む本を決め, 読む.</li> </ul>	○多様な視点から読書したり, 読書の魅力に気付いたりすることが大事であることを示す.

\*学校図書館に, 推薦カードと共に購入した本を並べる.

### (3) 本時について (本時 3/5 時間)

発見		収集		整理	◎	比較		処理		統計	
形成		発信		伝達		表現		創造		振返り	改善

本時目標 : 自分の推薦したい相手や目的にぴったりの「おすすめポイント」を決めることができる.

本時展開 :

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<p>1. めあてをもち, 本時の活動の見通しをもつ.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の面白さを伝えよう. あまり本を読むことが好きでなかった人も, 面白い本を見つけて, 友だちや下級生にその面白さを伝えることで, 自分も本を好きになろう.</li> </ul>	<p>●前時までに, 相手や目的にふさわしい本を推薦するために, 複数の本を読み比べながら, 本の内容や特徴をもとにして「あらすじ」を書き出したり, 「おすすめポイント」を見つめたりしておくように指示しておく.</p>
展開① (7分)	<p>2. グループで「おすすめポイント」が決められるように話し合う.</p> <p>①【個の学び】どのような人へ, どのような目的のために読んで欲しいのかを明確にする→「おすすめポイント」カードに書き出していたものを, どうしてそこをおすすめにしたか友だちに説明できるか確認する.</p>	<p>●【タブレット端末】「あらすじ」カードは赤付箋に, 「おすすめポイント」カードは青付箋に書き出しておいたものを確認させる.</p>
展開② (25分)		<p>●推薦相手や推薦目的が似ているグループで話し合いながら, 推薦する相手の立場に立ち「おすすめどころ」を比較したり検討したりするように指示する.</p> <p>●【タブレット端末】座標軸へ位置付け, 「おすすめポイント」を整理するようにする.</p>

<p>展開③ (10分)</p> <p>次時予告(3分)</p>	<p>②【協働の学び】まず、「あらすじ」カードをもとに、あらすじを紹介する。次に「おすすめポイント」カードを示しながら、推薦したい根拠を話す→聞いた人は「おすすめポイント」の根拠について、質問したり自分の意見を述べたりする→話し合いながら、質問に答えたり、「おすすめポイント」を座標軸に位置付けたりする。</p> <div data-bbox="311 465 1002 900" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>「おすすめポイント」を決めよう</p> </div> <p>③【個の学び】座標軸に位置付けた「おすすめポイント」カードを読み直し、修正を加え、「おすすめポイント」を決める。</p> <p>3. キャッチコピーや推薦理由を工夫して、推薦カードを作ることを確認する。</p>	<p>●再度、本を読みながら、「おすすめポイント」を決定するように助言する。</p>
--------------------------------------	--	--

※本時における「情報活用能力の『整理』」のポイント

本時は、それまで収集してきた情報（おすすめポイント）をより相手や目的に応じた内容にするために、座標軸を使って整理する。一つ一つの情報がプロットされた位置がどのような意味をもつのかを可視化できる。

1 単元名：和の文化について調べよう 「和の文化を受けつぐ 和菓子をさぐる」

2 単元目標：

◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等 読むこと(1)ウ)

◎目的に応じて資料を活用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができる。(思考力、判断力、表現力等 書くこと(1)エ)

○学習の見通しを持って、積極的に必要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりし、書き表し方を工夫して、調べたことを報告するパンフレットを作ろうとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 情報活用能力育成をめざす単元づくり (全13時間扱い)

(1) 単元について

図書資料やインターネットから情報を集めたり、集めた情報を使って新聞やレポート、プレゼンテーション等にまとめて発信したりするという学習は、国語科に限らず多くの教科、単元で行われる。テーマについての情報をたくさん集めたが、その情報を整理することが困難になってしまうことも多い。そこで、本単元では情報を集める前に、どのような観点で情報収集するかを決め、その観点に沿って情報を収集し、集めた情報と自分の伝えたいことと関連付けながら文章にまとめるという学習ができるようにする。また、自分の伝えたいことがよく伝わるようにするために、どの資料を使えばよいか判断する力も育てていきたい。情報の収集から編集、表現の場面でタブレット端末を効果的に活用することができる。

(2) 学習計画

時	学習内容	留意点
1	・パフォーマンス課題を知る。 ・学習計画を立てて、単元の見通しをもつ。	○パフォーマンス課題の目的意識や相手意識を明確にすることで、課題解決への意欲を高める。
2 ～ 6	・「和の文化を受けつぐ」を読んで筆者の説明の仕方を読み取る。	○パフォーマンス課題を意識して教材文の読み取りを行うことで、パンフレットを作る時に何が参考にできるかを考えながら学習に取り組むことができるようにする。
7 ～ 9	・「和の文化」について説明する観点に沿って調べ、情報を集める。	<本時展開参照>
10 ～	・情報を整理して報告の文章を書き、パンフレットを作る。 ・完成したパンフレットを読み合い交流する。	

12		
13	・単元を振り返る。	○必要な情報を集める時に気を付けることや、効果的な資料の活用の仕方について振り返り、学びを自覚させる。

(3) 本時について (本時 7～10 時間)

発見		収集	○	整理	◎	判断	
表現	○	発信		評価	○	改善	

**本時目標：**地域の伝統文化の良さが伝わるように、観点に沿って情報を集めてパンフレットの内容を考える。

**本時展開：**

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1. 課題を知り、本時の活動の見通しをもつ。  ・あなたは地域の町おこしに携わることになりました。地域に昔から伝わる伝統文化について、他県からの観光客に紹介するパンフレットを作りなさい。	●パフォーマンス課題とルーリックを提示し、学習の見通しをもつことができるようにする。
<b>地域に伝わる伝統文化の良さを伝えよう</b>		
展開① (15分)	2. グループで地域の伝統文化について何を調べるか観点を話し合い、情報収集をする。  2-1【協働の学び】どのような観点で情報を集めれば、観光客に、伝統文化の良さを伝えられるか話し合い、観点をフィッシュボーン図にまとめる。  2-2【個の学び】観点ごとに役割分担して情報収集をする。  3. 収集した情報を整理して、パンフレットの内容を考える。  3-1【協働の学び①】集めた情報をもとに、調べた伝統文化の良さを伝えるパンフレットの内容を考え、それをプレゼンテーションにまとめる。	●【タブレット端末】シンキングツールを活用して決めた観点を視覚化できるようにする。  ●パンフレットの内容を、プレゼンテーションにして互いに交流することで、論の進め方や活用する資料についての妥当性を判断できるようにする。
展開② (30分)	3-2【協働の学び②】プレゼンテーションを交流し、ルーブリックをもとに相互評価をする。	

	A	B	C
内容	地域の伝統文化の良さが、よく伝わるような観点・内容で、調べたことと自分の考えを関連付けている。	地域の伝統文化の良さが伝わるように調べて分かったことをまとめている。	地域の伝統文化の良さが伝わらない。
表現の工夫 (資料活用)	資料を活用することで相手をひきつけたり、内容が分かりやすくなったりしている。	説明する内容に合った資料を使っているが、相手をひきつけたり、分かりやすくなったりしていない。	説明する内容と資料が合っていない。
振り返り(5分)	4. 本時の学びを振り返る。		

#### 本時における「情報活用能力の『整理』」のポイント

収集した情報をもとに、パンフレットに載せたい内容をプレゼンテーションにまとめることで、伝統文化のよさを伝える上で必要な情報かどうか妥当性を判断する。さらに互いにプレゼンテーションを交流する活動を通して、多様な観点から比較・分類して整理することで、伝えたい内容が明確なパンフレットづくりができるようにする。

1 単元名：日本の諸地域 ④中部地方 ⑤関東地方 ⑥東北地方 ⑦北海道地方

2 単元目標：

- それぞれの地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。(知識及び技能 C(3)ア(ア))
- それぞれの地方について、産業、交通・通信、生活・文化、自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。(知識及び技能 C(3)ア(イ))
- ◎それぞれの地方において、産業、交通・通信、生活・文化、自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。(思考力、判断力、表現力等 C(3)イ(ア))
- それぞれの地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。(学びに向かう力、人間性等)

3 情報活用能力育成をめざす単元づくり (全11時間扱い)

(1) 単元について

本単元では、考え(解釈)が導かれるのにふさわしい情報(事実)を調査し、積み重ねる学習活動を通して、調査結果を基に各自が解釈することや、読み取れることと読み取った事実から自分が解釈したこととを分けて説明することができるような情報活用能力の育成を目指す。具体的には、課題に対する仮説を設定し、その仮説の根拠となるような情報(事実)を収集した後、情報に基づいて特色や意味を比較・関連付けて多角的・多面的に考察する。まとめでは、学習の過程において読み取った事実と自分の解釈とを分けて、論理的に表現する。

また、1人1台のICT端末を活用するとともに、1つのファイルを共有して他者との共同編集機能やコメント機能を活用することで、収集された情報(事実)の妥当性や論理的な構成をよりよく検討することができるようにする。

(2) 学習計画

時	学習内容	留意点
0.5	・単元のゴールイメージと単元の見通しをもつ。 ・単元の学習の進め方をグループ内で協議し、方向性を定める。	○本単元で育成を目指す資質・能力を示す。 ○4人グループを構成する。 ○本単元の学習方略を検討させるとともに、その確認や見直しができるよう、記録させる。
5.5	・4つの地方それぞれに設定された課題に対する仮説を設定し、その仮説の根拠となる事実(情報)を収集する。	○各グループの学習方略に基づいて取組を進めるとともに、その見直しや再検討を適宜実施させるよう促す。 ○教科書を基本として、インターネットによるオ

	・収集した情報を整理・分析し、仮説の妥当性を検証するとともに、考え（解釈）を明らかにする。	オープンデータの活用を促す。
1	・4つの地方それぞれの課題に対する考え（解釈）を導く情報（事実）を論理的に構成する資料を、グループ内でお互いに批評し合う。	<本時展開参照>
1	・前時の批評を踏まえた資料の再作成を行う。	○グループ内でお互いの学習の成果を発表しあうとともに、相互に評価を行う。
2	・作成した資料に音声を加えた説明動画を制作する。	○製作した説明動画は、共有フォルダへの提出を指示する。
1	・学級内のすべての説明動画を評価し合う。	○評価の観点として、内容の正確性やわかりやすさ、論理性などを示す。

### (3) 本時について (本時 2・3/5 時間)

発見		収集		整理		判断	
表現		発信	◎	評価		改善	

**本時目標**：中部地方・関東地方・東北地方・北海道地方の課題について、自分の解釈の根拠となる事実を論理的

に構成するとともに、事実と解釈を明確に分けて資料を作成することができる。

本時展開：

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	1. 本時の学習の見通しをもつ。	●本時の学習が、前時までに作成した資料をグループ内でお互いに検討し合い、改善の方向性を明らかにすることであることを説明する。
<b>グループごとにお互いが作成した資料について、4つの観点に基づいて批評するとともに、改善の方向性を考える。グループごとにお互いが作成した資料について、4つの観点に基づいて批評するとともに、改善の方向性を考える。</b>		
展開① (15分)	2. 【個の学び】作成された資料を批評する。 ・グループ内の他者が作成した資料について、コメント機能等を活用して、批評し合う。 ・批評は以下の観点に基づいて行う。 1) 「事実（情報）の出典が明確に示されていて、信頼できるものであるか」 2) 「解釈（考察）は、示された事実（情報）によって導くことができるもので、過不足はないか」 3) 「課題と解釈（考察）とが正対しているか」 4) 「事実（情報）と解釈（考察）が明確に分けられているか」	●【ICT 端末】コメント機能または他の共有したファイルを活用させる。
展開② (20分)	3. 【協働の学び】作成された資料を相互に批評し合う。 ・自己が担当したスライドに付されたコメント等を確認する。 ・コメント等を基にして、2での観点に基づいた口頭での質疑応答や改善の方策などを検討し合う。 4. 【個の学び】グループ内での批評を踏まえて、担当する資料の改善の方向性を考える。	●【ICT 端末】コメント機能または他の共有したファイルを活用させる。 ●ファイル上のコメントだけではなく、口頭でのやりとりを行うように指示する。
展開③ (10分)	5. 次時ではグループ内で相互の発表や、発表内容に対する	
次時予告	議論を行うことを確認する。	

※本時における「情報活用能力の『発信』」のポイント

本時は、課題に対して設定した仮説の根拠として収集された情報を論理的に構成することによって、自らの考えを明らかにするとともに、事実と解釈とを明確に区別した発信に貢献する資料を作成する。

【学習指導案記入のポイント】

1. A4版裏表（あるいはA3版）1枚印刷で、配布できるように作成する。
2. 単元名、単元目標は、各教科の表記に準ずる。
3. 「情報活用能力育成をめざす単元づくり」では、情報活用能力を意識して記述する。
4. 「本時について」の表には、本時で扱う「情報活用能力の要素」に◎をつける。複数要素がある場合には、  
◎○を複数つけるのも可。
5. 「本時展開」では、「3.」で○をつけた要素を意識した模擬授業の流れにする。
6. 「本時展開」では、【個の学び】【協働の学び】【全体の学び】の学習形態が分かるように記述する。
7. 「※本時における「情報活用能力の『整理』」のポイント」は、本時の学習のポイントについて、記述する。

本実践における情報の整理

紹介したことの列挙、その中で自分が推薦したいと強く思う部分の抽出、そこから言えることの商品化といった活動が挙げられる。

(5) 「情報活用能力育成事業」における実践例調査研究 1

開催地：北海道教育大学附属函館中学校

授業日時：令和二年 11 月 17 日（火） 9：45～11：35 二枠

検討会： ” 11：40～12：30

授業参観委員：佐藤委員

参観授業：中学校第一学年社会科 単元：世界の諸地域 ③アフリカ

1-A と 1-C の授業参観を行った。



図表 1 3

授業者である郡司先生が  
本時の目標を説明

図表 1 4 参観授業教室



図表 1 5 佐藤委員参観



日時：3月14日（日） 会場：しいのき迎賓館会議室

報告者：所属 放送大学

氏名 佐藤幸江

1. 授業内容

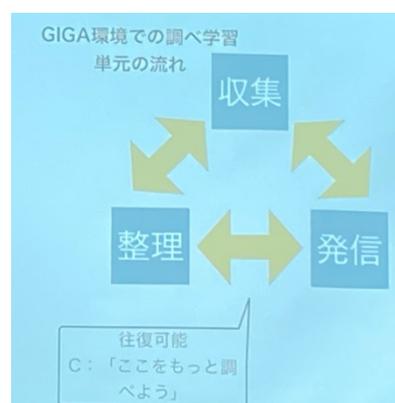
学年：小学校第5学年	科目： 社会科	授業者：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 岡本光司先生
単元名：自動車を作る工業		

2. 授業内容（授業の流れや指導・ICT活用のポイント等）

●授業の流れや指導

・社会科の問題解決型の授業とするために「社会事象の提示→仮説の設定→解決方法の選択→個で調べ学習→共有→協働的に解決」という流れが必要である。

・これまで教師が主導しながら「情報収集→整理→まとめ」という直線的な単元の流れをとっていたが、これから1人1台タブレット環境になったことで、<図1>のように学習者が主体となって「情報収集→整理→発信」を繰り返しながら、自分なりの根拠をもって仮説を証明していくという学びを大事にする。  
 <図1：単元の流れ>



●ICT活用のポイント

・教科書、資料集の他に、NHK for School, 各自動車会社のWeb ページで自分の仮説の根拠となる情報を収集する。その際、ネット情報は教師の方でリスト化しておく。

3. 来年度実施予定のセミナー内の模擬授業としての評価、改善ポイント等

●評価

・社会科は、情報活用能力の育成という面でとても重要な教科の1つであることから、ぜひ模擬授業として実施する中で、よりその重要性が伝わるような模擬授業となるように改善していくとよい。

●改善ポイント

・児童生徒目線で授業を受ける場面と、教師目線で授業を考える場面とを明確に分けて実施していかないと、模擬授業を受けているのか実践発表を聞いているのか受けている側が混乱してくるので、その流れを再構成していくとよい。

・Sky MENU<図2>を使用予定であるが、まだまだ受ける側のICTスキルに差があるので、なるべくシンプルなタブレットの操作になるように工夫するとよい。  
 <図2：学習支援システム>



(6) 「情報活用能力育成事業」における実践例調査研究2

開催地：しいのき迎賓館セミナールームB

授業日時：令和3年3月14日（日）9:00～13:00

授業者：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 岡本光司先生

授業参観委員：中川委員長、小林副委員長、佐藤委員、山口委員

参観授業：小学校5年社会科単元：「自動車をつくる工業」



図表 1 6

授業者である岡本先生が模擬授業の単元目標を説明



図表 1 7

委員の先生方が模擬授業に参加している様子

2020 年度事業「情報活用能力の授業力育成事業（JKA 事業：コミュニケーション力育成事業）3/14 情報活用能力育成授業研究調査報告書

日時：3 月 14 日（日） 会場：しいのき迎賓館会議室

報告者：所属 茨城大学

氏名 小林祐紀

1. 授業内容

学年：小学校第 5 学年	科目： 社会科	授業者：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 岡本光司先生
単元名：自動車を作る工業		

2. 授業内容（授業の流れや指導・ICT 活用のポイント等）

岡本氏考案の模擬授業は、単元全体で情報活用能力を意識できるものとなっている。また単元を通じて、情報収集、情報の整理・分析、まとめ・発表が行き来するようなデザインであるのが特徴的である。

さらに、単元の冒頭では大手自動車メーカーの研究開発費に着目し、「研究開発費が年々増加しているのなぜか」という単元を貫く学習課題を設定した上で、子どもたちがさまざまな資料から、調査していく。

ICT 活用のポイントは大きく分けて 3 つである。1 つめは、調査活動におけるツールとしての活用である。教科書、図書資料などと同様に NHK for School を活用したり、ウェブ上の多様なコンテンツを用いて調査活動に取り組んでいく。2 つめは調査したことをまとめるノート機能としての活用である。そして 3 つめは単元を通じて、デジタル版思考ツール（フィッシュボーン図）に、各時間のまとめを入力していくという活用である。

加えて GIGA スクール構想を念頭におき、家庭学習やネットワークを利用して児童同士の交流も視野に入れている。

3. 来年度実施予定のセミナー内の模擬授業としての評価、改善ポイント等

情報活用能力をテーマにした模擬授業としては十分に評価できる。特に、単元を通じて多様な能力を含む情報活用能力を育成しようとしている点、ICT 機器の特性を理解し活用場面を設定している点、GIGA スクール構想を念頭におき家庭における活用や子どもたちが文房具のように活用することを推奨している点である。

一方で、模擬授業として当委員会の取組内容を反映させ、社会科の授業としてより精度を高めたものにするためには、模擬授業参加者（社会科を専門とする教師、専門とはしない教師も含めて）が追実践をイメージ出来るようなものであることが望ましい。

例えば、扱う資料は特殊なものではなく、教科書に掲載されているものを利用すること、情報活用能力を意識した授業のポイントを明確にすること等が挙げられる。

模擬授業を通じて、どの部分は担当者からの説明・解説で済みますのか、またどの部分をじっくりと時間をかけて参加者に体験してもらうのか、この点についても限られた実施時間であるからこそ、詳細に詰めていく必要が指摘できる。

## 7. まとめ

情報活用能力の重要性が最初に指摘されてから、すでに30年以上経過している。しかし、教員の認知度は決して高いとはいえない状況である。

また、様々な情報活用能力に関する表や整理が出ていますが、「分かりにくい」「使いにくい」という声を聞く。さらに、自治体や研究会が作成しているものが乱立していて、「抛り所がわからない」という声も聞く。そこで、基本となる体系の整理・提案を行う委員会を発足させました。同時に、情報活用能力調査を行い、実態を把握しました。その結果も盛り込みながら、「情報活用能力ベーシック」を開発し、模擬授業の実施を行った。

このような経過の中、本委員会では、授業の構想及び実践に資することを意図し、学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」を開発しました。情報活用能力ベーシックは、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に情報活用能力ベーシックに適合するキーワードを抜き出し、整理することを通じてできたものである。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできるものとして開発しています。今後、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施していき、さらに活用されることを期待している。

本委員会では、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の日本教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願ってやまない。

今年度の「情報活用能力の体系表」となる成果物を、来年度はセミナー、ワークショップ等の形で普及啓蒙していく予定である。

また、今年度開発した「情報活用能力ベーシック」を現場の先生方に活用していただくための実践事例等を来年度制作し、必ず教育関係者に役立つものと考えている。

以上

教育現場の I C T安全安心対策事業 実施報告書

---

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<https://www.japet.or.jp/>

---

禁無断転載

**JAPET**  
**& CEC**